

む ら
「ディスカバー農山漁村の宝」 (第11回)
のうち北陸農政局管内の選定地区MAP

小澤 善昭さん (石川県七尾市)
～能登里山里海総合コーディネイター
を目指す～
【個人部門】



…P 10

5

7

6

MISAKI CREATORS (福井県越前町)
～越前水仙みんなの力で100万本再生！～
【ビジネス・イノベーション部門】



…P 11

有限会社あわら農楽ファーム
(福井県あわら市)
～スマート農業による農福連携で
SDGs(ノーマライゼーション)の実現～
【コミュニティ・地産地消部門】



…P 12

小澤 善昭 さん(石川県七尾市)

～能登里山里海総合コーディネーターを目指す～

農業

復興

多様な分野との連携



上：タイ・バンコクでの農作業の様子
下：カンボジアの田植直後の水田の様子

所在地：石川県七尾市古府町ワ部39番地
連絡先：ozawayoshiaki19761223@gmail.com
HP/SNS：
<https://www.facebook.com/yoshiaki.ozawa.39>



能登でのひゃくまん穀の稲刈り中



能登での農作業中の小澤氏

概要

- 能登地方における地域振興や活性化が課題。現在は震災後の復旧・復興を目指す。
- 11年前にシステムエンジニアを退職し、新規就農。4年前よりSNSにおいて日々の活動や能登の情報発信を本格開始、前職システムエンジニアの経歴を活用し農業とIT/ICTとのイノベーションの可能性を模索、タイやカンボジアとの交流を行うほか、小規模水稻農家の持続可能性や農業の栽培技術やノウハウ等の論文化を模索するため、多様な者とのつながりを構築している。

成果

- 国内お米の各種コンテストに積極的に出品し、複数の表彰を受賞するなど、能登の水稻農家として評価されたほか、Facebookによる投稿は年間400～500回行い、能登の水稻農家としての認知度も向上。
- 東南アジアにおけるビジネスを展開するため、タイやカンボジアとの交流を行い、営農指導や情報交換を行っている。

MISAKI CREATORS(福井県越前町)

～越前水仙 みんなの力で100万本再生！～

農業

多様な分野との連携

その他(トキ・イミ消費型の新しい市場の開拓)



海を一望する畑で草刈り

所在地：福井県丹生郡越前町梨子ケ平 2 8-2-2 棚田水仙館内
連絡先：misaki.jiman@gmail.com
HP/SNS：<https://misaki-creators.myshopify.com/>



福井県立大キャンパス内に圃場を整備する学生たち



応援付加価値をのせた水仙切り花の販売

概要

- 福井県花の越前水仙は、過疎高齢化による担い手不足やシカの食害により生産量が大きく減少。
- 地元集落や自治体、福井県立大学と連携して資源の未来に可能性を求める人や企業を結集するプロジェクトとして「MISAKI未来農園」を設立。MISAKI CREATORSが人や企業のプラットフォームとなり維持管理が困難になった水仙畑の生産を代行したり、獣害や長年の放棄で荒れた状態から再生を行う。併せて、購入によってプロジェクトを経済的に後押ししてもらう応援付加価値タイプの水仙切り花を、花卉卸販売会社と連携して販売。

成果

- 令和5年の冬は越前水仙の花弁市場への出荷が1万5千本を突破し、産地全体の2%を底上げ。獣害リスクの少ない県内平野部の県立大学キャンパス内で球根の増殖を行うサテライト圃場を試験的に設けて学生と一緒に作業を行うなど、長年の課題を既存の枠組みにとらわれないかたちで解決しながら前進している。
- 試行段階から参加している県内企業の社員を挙げて水仙畑を整備、福井県に支店を置く上場企業も社員がボランティアで参加、フットサル女子日本リーグのチームは水仙柄ユニフォームを新調するなど多様な分野と連携を強化。応援水仙の販売も北陸や関西で本格化している。

全国選定

コミュニティ・地産地消
部門

有限会社あわら農楽ファーム(福井県あわら市)

～スマート農業による農福連携でSDGs(ノーマライゼーション)の実現～

スマート農林水産業

農福連携

関係人口の創出



所在地：福井県あわら市山室72-101

連絡先：info@awara-nougaku.jp

HP/SNS：<http://www.awara-nougaku.jp/>



農福連携による田植え作業(上)、
スマート農業による稲刈り(下)



刈払い機労働安全衛生
教育研修



農福連携で生産した主な
ノウフク商品

概要

- 「高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手」と「療育の一環として障がい者に農業を通じて働く場」が必要。
- 平成13年に会社を設立し、施設外就労で障がい者を受入れ農福連携に取り組む。全国に先駆けGPSを活用したスマート農業を導入、令和4年からは農業試験場とロボット田植え機、アシスト付きコンバインの実証試験を行う。

成果

- スマート農業等で農業に科学的な視点を積極的に導入し、高品質で安心な「農産物」、「生産工程」の安全性が高まり、GH評価905点のリスク削減となる。実証試験では、熟練オペレーターとの作業時間は10a当たり4～6分の差があったものの障がい者の自信や意欲の向上及び新規農業者が参入しやすい環境づくりに寄与。また、農福連携、情報通信技術(KSAS)の活用、国内肥料資源を活用した特別栽培農産物等で食料の安定供給及び自然環境にやさしい農業等のSDGsに取組。
- 農産物等は病院、福祉施設、外食事業者や量販店、ふるさと納税等で高い評価を得て完売し、年間売上は1.9億円。施設外就労の受け入れ人数は令和5年度には12人に増加、過去10年間で一般就労に移行したのは5人と障がい者の安定的な就労先として貢献。